No.22
2017・5

ホーモイ通信

高齢社会をよくする下関女性の会
（ホーモイ）
代表　田中隆子
TEL/FAX 083-253-4892
URL：http://www.yg-life.net/homoj/

2016年度市民福祉講座Ⅱ

今、笑顔になれる社会

将来を担う子どもの６人に１人が貧困状態です。親の経済格差が大きく、子どもの「貧困ギャップ」も深刻です。子どもを取り巻く環境をよくし、共に生きる豊かな地域社会を構築しよう。

基調講演　今、笑顔になれる下関をつくるには

講師：日本総研調査部主席研究員
藻谷浩介

こんにちは、藻谷です。ご来場、ありがとうございます。

さて、下関の状態はいいですか、悪いですか？福岡市や東京と比べてどうでしょうか。「下関は、いけんのぅ」と思っておられませんか。どの地域も全部良い、悪いはない。イメージと事実とは違うのです。常に事実を数字で確認しないと間違える。今日は、数字を見ながら、実際はどうなのかを考えていきたいと思います。

●「地域活性化」とは

交通が便利になり、工場や職場が増え、景気がよくなることでしょうか？そうなれば人口が増えるでしょうか？時代遅れも甚だしいです。地域活性化とは、人口が減らなくなることです。現状維持です。若者が戻ってきて、子どもが生まれて育つということです。

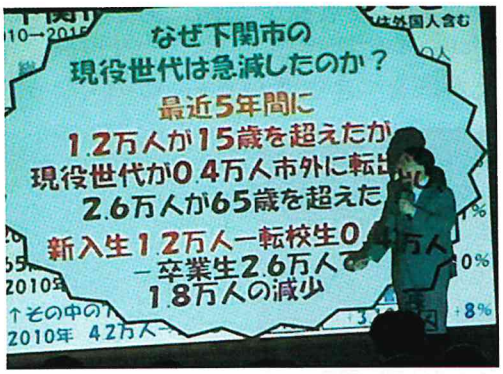
東京都、福岡市と山口と島根、この中で失業率が一番高いのはどこでしょうか？東京は3.6%ですよ。山口2.8　福岡4.1　そして島根は2.6です。島根は仕事があるんですね。また、田舎代表で阿武町も含め、100年後に残っているのは、この中でどの地域でしょうか。

●下関市における５年間の人口の変化

最近5年間の人口の変化をみてみましょう。2010年～2015年、下関では人口が12,400人減りました。このペースで減るとあと110年で下関に人はいなくなる。0歳から14歳の人口については５年間で34,000人から2,700人減り、8%減です。あと60年程で子どもがいなくなるのです。学校の統廃合、学習塾の経営難、子ども服も売れず、様々な面で激しい影響が出るでしょう。また、大人の世代（15歳から64歳）はどうでしょうか。この5年間で17,600人減り、11%減です。実は子どもより大人の方の減り方が速いのです。50年弱でゼロになる。これは、住民税を払う人が5年間で1割程減るということです。65歳以上は10%増、75歳以上は8%増です。75歳を過ぎるとさすがに福祉医療のお世話になる人が増えます。ちょうど、子ども1人あたりと同じくらいのお金がかかる。年寄りが増えたけど子どもが減ったので、何とか保っているのです。何とも将来性のない下関ですね。今の年寄りの数と同じくらいの子どもが生まれないと、どんどん人は減ります。せめて今下関に生まれ育っている子どもがちゃんとご飯が食べられ、教育が受けられ、普通に仕事ができるよう、今いる子どもを大切にしないとね。

●福岡・首都圏・阿武町の５年間の人口変化

福岡市は人口150万を超えています。この5年間に75,000人も増えました。子どもは少し増えていますが現役世代が増えず、75歳以上が21%増えている。市は財政破綻です。病院、福祉サービスが足りなくなる。首都圏では人口は50万人増えていますが、14歳以下は7万人減り、2%減です。65歳以上は18%増、75歳以上では24%増で、下関の3倍のペースで増えています。65歳以上は269万人です。さて、阿武町ですが、実は、人口が増えているわけではなく、3,000人から280人減り、子どもは304人しかいない。75歳以上は1,028人もいますが、この5年間に年寄りは減り、子どもは1人増えました。年寄りが増えないので、本腰を入れて住民が子育て支援をし、子連れの若い人を農業に雇い入れています。



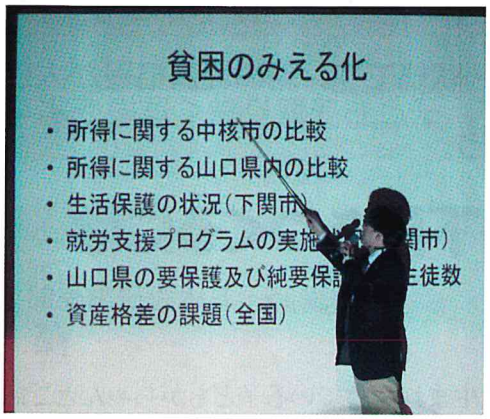
●これからの下関

3,000人規模の阿武町ですが、下関でも中学校区単位なら同じことができるのではないでしょうか。子育て世代をみんなで助け、大事にして、年寄りもそれを助ける。若い人がこの地を選んで入ってくるようにするのです。子どもを産み、育てやすくする。それが再生につながるのです。それを3,000人くらいの単位でするのです。今いる子ども達を大事に育て、守っていく下関をつくるにはどうしたらよいか。では、その具体的なお話をパネリストからお聞きしましょう。　（中野　直子）

「貧困の見える化」

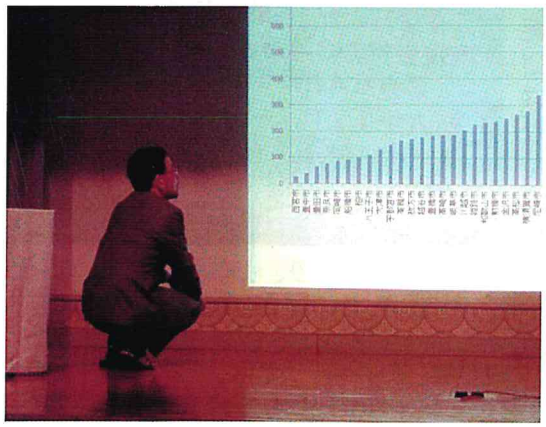
下関市立大学教授
難波利光

貧困の話、生活保護の状況、児童数、資産格差から見えてくることを話します。



福祉問題・高齢化問題・貧困問題というのは、今の高齢者の問題だけではなく若者の問題だということを認識してほしい。若い20代の人たちを40年、50年後にヤバイ状況にしない為、今できることを考えていかなければいけない。

下関市は、全国市町村1，741の中で平均所得が677位というかなり低いランクにあり、県内でも9位の280万円です。それに低所得者の割合が多い。また生活保護世帯は最近減少傾向にあるのですが、生活困窮者イコール生活保護ということではなく、高齢になって蓄えが底をつき生活が立ちいかなくなって保護を受けるという事例が増えてきている。



子どもたちでみると生活保護までになっていないけれども、その予備的なところまで認めて保護支援しなくてはいけない人たちは増えている。要保護児童生徒数1.42%、準要保護児童生徒数34.29%（県内平均23.45%）要保護に準ずる程度に困窮していると市町村教育委員会が認めた者の数が、下関市は極端に多い。視点を変えると支援が手厚いということになり、そういう世帯が多いということです。所得について見てきましたが資産保有の違いから出てくる格差についても併せて検討が必要である。

《藻谷浩介》
所得格差が長年にわたり貯蓄などの資産格差に出てきていて、そう簡単に差は縮まらない。市内の子どたちの3人に1人以上が貧しい、もしくは危ない寸前に来ている。見えないところの『見える化』は大事ですね。

子どもの現状

下関市こども未来部・こども保健課課長
柿澤満絵

こども保健課は、こども未来部の下で相談支援（虐待の申し出等）や乳幼児を訪問し、健康面をサポートしています。

経済的なゆとり状況と子育てに関連する事柄についての研究で、経済的にゆとりがないと子育てに満足していない率、父親の育児不参加率などが高いとの結果が出ています。食事面では、家庭はバラエティーに富んだ材料での食事内容となり、ゆとりのない家庭ではインスタント食品の比重が多くなっています。

親の立場で見ると、子どもの性格や癖、子どもを叱り過ぎる自分自身を責めすぎる等の育児の悩みを持っています。

育児相談の相手は、親・兄弟・親族・友人知人・近隣地域の人等を挙げています。残念なことに公的な相談機関はハードルが高いのでしょう利用はかなり低い。子育ての仲間がいるかいないかでは、お母さん方の気持ちのゆとりに差がでます。2・3世代同居の方では相談相手がいるという回答は90%を超えていますが、一人親家庭では88%と低くなっています。平成20年と25年の統計を見比べても不安感や負担感はあまり変わっていない。子育てが地域の中や社会全体で支えられていると思っている人は5割という数字も変化はない。旧市内と比べて、旧4町の方が地域に支えらえている感が高い傾向です。子育て世代は子育てを通じ地域のつながりを作っていく過程から、多世代交流などで地域に対する愛着を感じていく。下関市は他の地域と比較して地域のつながりが低いような結果となっています。生活が苦しい人本人は、直接訴えない。周りがそれとなく気づいて公的機関に教えてほしい。母親たちのケアや子育ての不安・負担感を軽減する活動も始めましたので、是非利用していただきたい。

《藻谷浩介》
困窮している人はなかなか本人から言い出さないので手を差し伸べていくことが大事ですね。

生野きらきら子ども食堂の現状

高齢社会をよくする下関女性の会（ホーモイ）代表
田中隆子

「高齢社会をよくする下関女性の会（ホーモイ）の活動についてお話します。まず趣旨・目的ですが、「しあわせな高齢社会の創造」を目的に、「すべての人たちが自立し、共に支え合い安心して生きられる社会」の実現を目指します。

ホーモイの主な活動、事業は

- 市民福祉講座
- 介護予防のためのサロン
- 時代のニーズに合った講演会、シンポジウム、調査研究
- 広報活動（会報発行、サロンレポート発行、ホームページ、カンパンブログ、パネル展示など）
- 子どもプロジェクト（生野きらきら子ども食堂）です

ホーモイは学びと実践を両輪にし活動しています。

昨年度6回の市民福祉講座で子どもの現状を学ぶ中で危機感を覚え、「子どもプロジェクト」を立ち上げました。まず①生活支援（子ども食堂など）②学習支援、③居場所作り、④多世代交流、⑤子どもを応援する地域づくりです。

子ども食堂では、過去15回の開催参加者の延べ人数が569人。主役の子ども・親・スタッフ等多世代の交流がここで見られます。②を除く目的は完全ではないですがクリアできていると思っています。②の学習支援は会場が狭いので会場を確保出来次第、大学生や元先生方の支援を得て開設したいと考えています。子ども食堂アンケート結果の分析から問題を抱えている子（3食たべていない、子ども一人での食卓など）家庭内の状況（経済的ゆとりがない、時間的なゆとりがない、子育ての環境の不十分さなど）が見えてきました。子ども食堂は、行政と家庭間の橋渡し的な働きが大きいと感じています。私たちは一人一人が出来る事を実践し、共に生き支え支えられる地域社会を構築して行きたいと願っています。

《藻谷浩介》私も支援させて頂きます。（波田　澄子）

生野きらきら子ども食堂

毎月第1、第3　火曜日　17:30~
「風の家」で開催予約不要　・無料
どなたでもお越しください！！

ご支援ありがとうございます。
植村武史・小山芳子・矢野節子・村上冨美代
久澄典朗・梅光学院幼稚園・暁の星幼稚園
古川弘美・田崎育実 etc（敬称略）

介護予防のためのサロン

毎月第1土曜日 10：00～14：00
下関市立大学体育館で開催しています
お気軽にお越しください

▲頭を使いグーチョキパー

▲筋力トレーニング

▲節分

▲市立大学吹奏楽部

▲笑いヨガ

▼坊主めくり

▲フォークダンス